

第3回広島高速道路における大規模修繕等に関する技術検討委員会
議事録

- 1 日 時 令和7年10月31日（金） 13:00～14:00
- 2 場 所 広島大学工学部 A2 棟 523 会議室
- 3 出席者 資料2「出席者名簿」のとおり
- 4 傍聴者 2名
- 5 報 道 1社

（新 聞）日刊建設工業新聞社

6 議事概要及び結果

事務局から、資料4「第3回広島高速道路の大規模修繕等に関する技術検討委員会資料」により、第1回及び第2回技術検討委員会において審議した内容を踏まえ、「広島高速道路の大規模修繕等計画（案）」について説明

（1）大規模更新の実施時期について

委 員）大規模更新については、優先実施としながらも、完了までに10年以上かかる計画となっているが、これ以上の前倒しは難しいのか。

事務局）大規模更新等の実施時期については、公社のこれまでの実績などを踏まえ、施工可能数量の範囲内で最大限前倒しを行ったものである。

（2）健全性の判定手法の整合性について

委 員）橋梁の健全性を判定するにあたって、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲなどの区分で判定するもの、A・B・Cなどの区分で判定するもの、また複合スパン判定を行うものがあるが、それぞれの評価結果と最終的にフロー図で採用される工法は整合がとれているか。

事務局）大規模修繕または大規模更新の対象を選定するにあたっては、Ⅰ～Ⅳの区分で評価する「健全度」ではなく、SおよびA～C区分で評価する「損傷度」に着目している。これは、健全度が橋梁全体を対象とした総合的な評価指標であるのに対し、損傷度は部材ごとの損傷単位で評価する指標であり、橋梁の状態をより詳細に把握できるためである。損傷度による評価結果とフロー図で採用される工法は整合している。

また、2巡目点検において健全性がⅢと判定された橋梁には、主に「RC床版の劣化によるもの」と「コンクリート剥落の恐れによるもの」の2種類がある。RC床版の劣化によりⅢと判定された橋梁については、すべて大規模更新の対象としている。一方、コンクリート剥落の恐れからⅢと判定された橋梁については、大規模更新の対象とはしていないが、個別に補修等の対応を完了している。

(3) RC 床版の対策時期と効果検証について

委員) 大規模更新の対象となる RC 床版を有する 6 橋について、大規模更新の実施後は、大規模修繕(高機能防水)を繰り返し実施していくという理解でよいのか。

事務局) そうである。

委員) RC 床版における防水機能の強化が、今後、橋梁の長寿命化にどの程度寄与するのか、しっかりと検証していただきたい。

事務局) 了解した。

(4) RC 橋脚の長期的な維持管理における留意点について

委員) RC 橋脚については、現時点で劣化の進行は確認されていないことから、大規模修繕等の対象外と整理されており、この点についてはこれまでの委員会で合意が得られている。

ただし、広島高速道路の供用年数は 20 年から 40 年程度と比較的若く、現時点では劣化が顕在化していないという可能性もある。

また、コンクリートの劣化は、使用材料や施工条件、水の影響を受ける環境などさまざまな要因に左右されることから、100 年間という長期的なスパンにおける維持管理にあたっては、劣化の進行状況を注視しつつ、適切に維持管理を行っていただきたい。

事務局) 事業効果の検証結果や定期点検の状況を踏まえ、概ね 10 年毎に計画を見直すこととしており、今後、新たな対応が必要となった場合には、その都度、適切に対応していく。

(5) 全体の総括について

委員) 本事業計画案について、妥当と認める。

本日の検討委員会の内容を踏まえ、後日改めて事業計画案に対する提言を取りまとめて提出する。

事務局) 了解した。

以上